

第120回日本眼科学会総会 モーニングセミナー 3

日時： 4月8日（金）7：45～8：45

会場： 第4会場

（仙台国際センター 2F 桜1）

私の白内障手術レベルアップ - 同じ手術でもワンランク上の視機能を -



座長

前田 直之 先生
（大阪大学）

【ご略歴】

1984年 高知医科大学卒業
1992年 米国インジアナ州立大学眼科リサーチフェロー
1995年 大阪大学眼科学教室助手
1999年 大阪大学眼科学教室講師
2001年 大阪大学大学院感覚機能形成学助教授
2004年 大阪大学大学院視覚情報制御学寄付講座教授
現在に至る

座長のことば

白内障手術は、手術手技と機器の進歩によりかなり安全に施行できるようになりました。しかし、術後の視機能に対する患者サイドの期待も同時に高まっていて、この期待を越える視機能が得られないと、どんなにきれいな手術がなされていても術後の不満につながると考えられます。このような状況は、術者と患者双方にとって不幸であり、是非避けたいところです。

そこで本セミナーでは、お二人のエキスパートから二つの白内障術前検査についてご紹介頂き、同じ手術手技で、ワンランク上の術後の満足感と視機能をめざすには、あるいは術後トラブルを減らすにはどうすれば良いか、一緒に考えてみたいと思います。皆様奮ってご参加下さい。



演者 1

須藤 史子 先生
(埼玉県済生会栗橋病院眼科)

【ご略歴】

1988年 東京女子医科大学医学部 卒業
1992年 東京女子医科大学医学部大学院 修了
東京女子医科大学 糖尿病センター眼科助手
2001年 東京女子医科大学 眼科 助手
2004年 東京女子医科大学 眼科 講師
2006年 米国クリーブランドクリニック コール眼研究所 留学
2007年 東京女子医科大学 眼科 講師 (復職)
埼玉県済生会栗橋病院 眼科部長兼任
2016年 東京女子医科大学 眼科 准教授
現在に至る

新しい光干渉眼軸長計測機器 ALADDIN

プレミアム眼内レンズを使用するような患者さんは Quality Of Vision に対する要求が高く、ライフスタイルや眼球の光学特性に応じて、眼内レンズの種類選択とレンズ度数の決定に注意が必要です。

新しく登場したトプコンの光干渉眼軸長計測機器 ALADDIN は、プラチドディスク型の角膜トポグラフィを一体化し、眼軸長をはじめ、前房深度、角膜曲率半径、角膜横径、中心角膜厚、水晶体厚、瞳孔径計測が可能であり、測定から眼内レンズ度数計算を全て1台で完結することのできる装置です。

本セミナーでは、ALADDIN の使用経験から、装置の有用性についてデータをご紹介しますとともに、眼内レンズ度数計算においての実力を検証し、“魔法のランプ”の魅力に迫りたいと思います。



演者 2

野田 徹 先生
(東京医療センター)

【ご略歴】

1986年 浜松医科大学卒業
慶應義塾大学医学部眼科学教室入局
1990年 慶應義塾大学医学部 眼科助手
1991年 国立東京第二病院 眼科医員
東京女子医科大学眼科 非常勤講師
1998年 国立病院東京医療センター 眼科医長
2001年 国立病院東京医療センター臨床研究室長
2003年 国立病院東京医療センター臨床研究部長
2007年 国立病院機構東京医療センター眼科医長
2011年 東京医療保健大学大学院看護研究科臨床教授
現在に至る

白内障術前術後評価における波面解析の重要性

視覚障害の原因疾患には、大きく分けて、眼光学系の障害と網膜・神経生理機能系の障害がある。したがって演者は、視力障害の原因精査を目的に紹介される患者に対しては、まずスクリーニング検査として波面センサーと OCT 黄斑部断層撮影をオーダーし、その所見を基に細隙灯顕微鏡検査で眼所見を詳細に確認した後、さらに必要な検査の要否を判断することを常としている。演者にとって波面センサーは、診断から白内障手術における眼内レンズ選択決定まで、眼科临床上必要不可欠な基本検査機器である。しかし、都内の眼科クリニックにおいては、より高額な OCT は既に約 3/4 の施設に整備されているが、波面センサーを備えているクリニックは少ないと聞く。

講演では、波面センサーによる診断から白内障手術における眼内レンズ選択決定、術後評価まで、その有用性を紹介したい。